

# ローマ帝国中に広まり、 ついにキリスト教を公認

「イエスこそ救世主」  
使徒たちによって広まった信仰

キリスト教は、ローマ帝国の時代に生まれた世界宗教である。

「私は律法を破壊するために来たのではない。完成させるために来たのだ」イエスは、当時のユダヤ教の形式的な律法主義を批判して、神の国の前では、ユダヤ教徒であることは特権ではなく、各人の信仰が問題であること、また神は、ユダヤ教のいうような嫉妬し怒れる者ではなく、恵みを与える者であるとし、神への愛、隣人への愛を説いた。

しかし、こうした言動に憤ったユダヤ教の指導者らに反逆者として密告され、30年ごろ、ローマ総督ピラトゥスによってイエスは十字架刑に処せられた。その後イエスが復活したという信仰が生まれ、使徒ペテロや伝道者パウロなど弟子たちは、ユダヤ教徒に迫害されながらも、教会をつくり、イエスこそが神の子キリスト(メシアのギリシア語)で、その死は全人類を救済するための贖罪の死であったと、地中海各地に宣教していった。

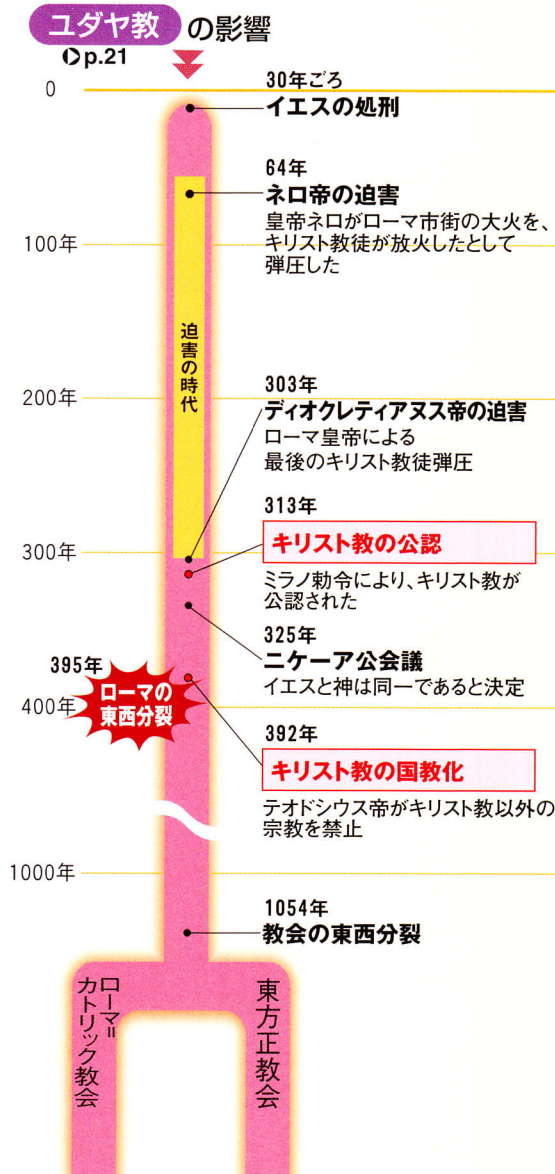
信徒の増加から国教化へ  
やがて三位一体説が確立

キリスト教徒は当初、ローマの大火の犯人とされネロ帝の迫害を受けたり、また

帝国の伝統的な祭儀や皇帝崇拜を拒んだため敵視されながらも、カタコンベ(地下墳墓)などに逃れて信仰を続けた。そうして3世紀になるころには、ローマ国内で次第に信者を増やしていった。303年、伝統的なローマの神々への信仰を重んじ、皇帝崇拜を強制したディオクレティアヌス帝が大迫害を行ったが、ますます増える信者の勢いに、迫害より懐柔と、313年、コンスタンティヌス帝はミラノ勅令によってキリスト教を公認。たちまち教会組織が整えられ、聖職者の身分が生まれた。

イエスは神か人間か。教義の対立が深刻となり、325年、ニケーア公会議で、イエスを神と認めるアタナシウスの説を正統とし、イエスを人間とするアリウス派は異端となった。そして、392年、ローマ帝国はすべての異教を禁止、キリスト教を国教と定めた。同じころ、現在の形の教典『新約聖書』が成立した。また、5世紀に神とイエス(子)と聖霊を3つの位格とする三位一体説が確立し、異端とされたネストリウス派は東へ伝播した。

## キリスト教の誕生と変遷



### キリスト教の誕生

反逆者として十字架にかけられたイエスが、その後復活したという信仰が広まった。ペテロやパウロのような伝道者は、イエスの死を人類の贖罪(しょくざい)であると宣教し、ローマ帝国中に信者を増やした。

### 『新約聖書』の成立

福音書や使徒の手紙、黙示録などはそれぞれキリストの死後100年の間に書かれた。しかし、現在の形に確立されたのは4世紀の宗教会議をへてからである。



ユダヤ教から生まれたキリスト教は迫害をへて、やがてローマ帝国全域へ広がっていった。

